

N03 江戸幕府の滅亡・尊王攘夷運動の高揚

1. 公武合体と尊王攘夷

A. 安政の大獄 (1858~59)

※ **桜田門外** の変 (1860.3.3)



井伊直弼 (南紀派) の下で老中 **間部詮勝** が一橋派などの大名・武士・公家らを弾圧

大名… **徳川斉昭** (水戸) ・一橋慶喜・ **松平慶永** (越前)ら隠居・謹慎

武士… **吉田松陰** (松下村塾) ・ **橋本左内** (越前藩士で適塾に学ぶ)

頼三樹三郎 (頼山陽の子)ら刑死 梅田雲浜 (若狭小浜藩士) 獄死

尊攘派志士らが老中 **井伊直弼** を暗殺 (水戸浪士 17名 薩摩藩士 1名)

→幕府独裁制→事実上崩壊

B. 公武合体運動

○ **安藤信正** (老中)

和宮 (孝明天皇の妹) と 14代将軍 **家茂** の婚姻を推進→公武合体の象徴

※ **坂下門外** の変(1862.1.15) 水戸浪士らが安藤信正らを襲撃し、幕府主導の公武合体運動挫折 *テロリスト集団水戸藩

島津久光 の登場 (薩摩藩主忠義の父) 藩兵 1,000人率いて入京 (1862.4.16)

→朝廷に幕政改革と過激派浪士取締りを説く

→ **寺田屋** 騒動 (4.23) 破約攘夷派の **有馬新七** らを肅清

→勅使 **大原重徳** を擁して江戸に下向 (5.22) 幕政改革を要求



○文久の改革

一橋慶喜… **将軍後見** 職・松平慶永… **政事総裁** 職 (大老にあたる)

松平容保 (会津藩主) … **京都守護** 職 (京都所司代の上・京の治安維持を担当)

参勤交代の緩和→ **三年一勤** へ (妻子のみ帰国許可)

西洋式軍制の採用・大型船建造

○ **生麦事件** (1862.8.21)

→江戸からの帰途、久光の行列を横切った英人を殺傷

→英は幕府に謝罪と賠償金を要求 薩摩には賠償金と犯人の処刑を要求

100万ポンド支払う

拒否

※ **薩英戦争** (1863.7.2)

生麦事件の報復として、英が鹿児島湾を砲撃 (アームストロング砲)

攘夷が不可能であることを知った薩摩藩はイギリスと接近

小松帯刀・西郷隆盛・大久保利通らが藩政を主導

C. 尊王攘夷運動の高揚

1. 背景

・開港後の物価騰貴→下級武士や庶民の消費生活を圧迫

・尊王攘夷運動が下級武士などへ拡大

○外国公使館・外国人への襲撃事件

1860.12.5 ※ **ヒュースケン** (ハリスの通訳) 三田で斬殺

1861.5.28 ※ **東禅寺** 事件…高輪の英仮公使館を水戸浪士が襲撃

1862.12.9 ※ **イギリス公使館** 焼討ち事件

品川御殿山に建設中の英公使館を長州藩の高杉晋作・久坂玄瑞・伊藤俊輔らが襲撃。

英国公使館は竣工したばかりでまだ誰も入居していない。高杉たちは、空家の公使館に夜陰に乗じて火を放ち、一目散に今の芝公園辺りの飲み屋まで逃げ帰り、「やった！やった〜！」と痛飲しているのだ。攘夷を決行するというのは、この程度のもだった。

尊皇攘夷とか言っているが「**テロリスト**」の集団である。

1863.7.2 ※ 薩英戦争 …



2. 尊王攘夷運動の展開

1862.7.6 長州藩、藩論を尊王攘夷に決定

11.27 三条実美 (勅使) ら、攘夷督促・親兵設置を家茂に伝える

1863.3.4 家茂上洛→5月10日を攘夷決行期限と上奏

6.1 長州藩、下関で米商船を砲撃

6.5 仏軍艦も砲撃、陸戦隊が砲台を占拠

○ **八月十八日の政変**

公武合体派の **会津** ・ **薩摩** 両藩が中心

尊攘派公家 (**三条実美** ・ 沢宣嘉ら) 長州藩の勢力を京都から一層→七卿落ちという。

参頂会議…公武合体路線上の雄藩連合政権



朝廷から横浜鎖港を迫られ、2カ月で崩壊

○尊攘派の蜂起…1863～64にかけて、各地で挙兵したが鎮圧された。

1863. 8. 13. 大和行幸→攘夷祈願・親征軍議の詔勅が出たが、八月十八日の政変で中止

8. 17. ✖天誅組の変…公家の中山忠光・土佐藩の吉村寅太郎らが大和五条の代官所襲撃

10. 12. ✖生野の変…沢宣嘉、福岡藩の平野国臣らが但馬生野の代官所襲撃

1864. 3. 27. ✖天狗党の乱…水戸藩尊攘派武田耕雲斎・藤田小四郎らが常陸筑波山で蜂起

○禁門の変 (1864. 7. 19)

八月十八日の政変に対する長州藩の巻き返し 長州内部では藩論が対立していたが、→ここに池田屋事件 (6.5) 新選組が京都池田屋で尊攘派を殺傷) の知らせが入り、一挙に京都奪還の藩論にまとまった。家老・国司信濃らは京都へ攻め込み、7月19日、開戦となった。これが禁門の変、と呼ばれるもので、天皇奪還のために御所を攻めたものである。長州は会津の誇る15センチ砲の前に敗退し、真木や久坂は戦死した。京都では、28,000戸が3日間で焼失する騒ぎであり、長州は賊軍扱いとなった。



○第一次長州征討

7. 24 幕府は勅令を受けて西南21藩に長州出兵を命ずる
長州藩は幕府に恭順の態度をとり、藩内の尊攘派を弾圧 (一時俗論派が実権掌握)
高杉晋作ら尊攘派は逃亡するも草莽になり再起を期す!

○四国艦隊下関砲撃事件 1864. 8. 5

外国船砲撃に対する列国の報復 (米・英・仏・蘭)
英公使オールコック (『大君の都』の著者) の指導



II. 明治維新

1. 討幕運動の展開

1865. 9. 21. 長州再征の勅許

1. 2. 高杉晋作ら馬関を再度占拠

3月、奇兵隊などの軍事力を背景に藩論を幕府への対抗に一変

5. 16. 英公使パークス着任

9. 16. 4国 (英・米・仏・蘭) 代表、条約勅許、兵庫開港を求め兵庫に來航

9. 19. 仏公使ロッシェ、幕府に征長意見を提出

* 朝廷や諸藩には再征反対の空気が強く、薩摩藩は出兵を拒否

1866. 1. 21 薩長連合 成立 ← 坂本龍馬・中岡慎太郎 の斡旋

薩摩藩 = 西郷隆盛と 小松帯刀、長州藩 = 木戸孝允。

6. 7. 第二次長州征討開始 幕府軍連敗

7. 20. 大阪城で家茂没 (21歳) →長州藩と休戦協定結ぶ
さらに1866末 孝明天皇 死去。

○条約勅許 (1865. 10. 5) →But 兵庫開港は不許可

1865. 5. 13 改税約書調印

貿易章程における一般輸入関税 20%が 5%へ

教派神道

民衆の救済、現世利益などを説き幕末の混乱期に普及していった。これらは明治時代に教派神道として政府から公認されるようになった。(中山みき) = 天理教 【大和】

(黒住宗忠) = 黒住教 【備前】、(川手文治郎) = 金光教 【備中】

2. 大政奉還

[背景] 徳川慶喜の幕政再建策

仏公使 ロッシェ の献策 仏士官を招いて軍制改革と諸大名をおさえて職制の集権化をはかる 長州征討の事後処理で幕府と薩摩藩が対立 → 薩長両藩は武力討幕へ

1867. 10. 3. 大政奉還の建議

徳川慶喜 ← 山内豊信 (前土佐藩主)

後藤象二郎 坂本龍馬 「船中八策」 = 公議政体論

雄藩連合政権、実質的には將軍を議長とする列藩合議制

1867. 10. 14. 大政奉還奏請 → 翌日勅許

1868. 10. 14 【倒幕の密勅】 (明治天皇) → 薩長両藩に

岩倉具視は天皇の政治的意思を表明する「勅許」を偽造したのだ。

【大政奉還】 (15代慶喜の政権返上) → 江戸幕府消滅 名を捨て実を取る

12/9 王政復古の号令 → 撰閣・幕府廃絶 (武力クーデター)

非合法の政権交代 三職 (総裁・議定・参与)

小御所会議 → 慶喜へ “辞官納地” 内大臣と徳川の所領返せ!

慶喜反発大坂城に引き上げ、新政府と対峙

1868 幕府軍 → 鳥羽・伏見で新政府軍と衝突、圧倒的戦力の新政府軍勝利【慶喜】を朝敵として東征開始。東征大総督【有栖川宮熾仁】親王、大総督府参謀は【西郷隆盛】

東征軍の中にあつた【相楽総三】率いる赤報隊は、幕僚での年貢半減を掲げて東山道を進み農民の指示を得たが、新政府は後に彼らを偽官軍として処刑した。

